

J P S

# 北九州

会 報  
日本郵趣協会  
北九州支部  
平成30年11月10日  
第 344 号

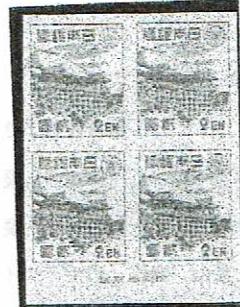
## 新 昭 和

### 第一 次

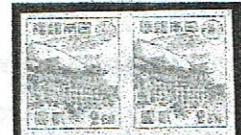
2円 清水寺 1946.12.1 発行



白紙



灰白紙



Pes.77 左大屋根右に縦線

5円 金魚 1946.11.15 発行



白紙



灰白紙



灰白紙・糊付き



灰白紙・糊付き・淡色

提 供：橋 本 たねひろ 氏

## 第一次新昭和切手2円及び5円の収集

橋本たねひろ

新昭和切手2円「清水寺」は、書留、訴訟書類や為替など単位額面用として昭和21年12月1日発行され、白紙と灰白紙昭和透かしがあり、狭透かしはない。

刷色は濃淡はあるものの朱色で比較的安定しており、銘版も右書「印刷局製造」のみで、楽しもうとすれば複数存在する版別収集をするか、定常変種を探すかくらいで、未使用では結構苦労するかも知れない。

ダブルプリントや裏写りがあるので、これらを含める手もある。

さくら日本切手カタログもただ1種掲載されているだけの、寂しい切手であるが、京都切手展記念小型シートが同図案で昭和22年8月19日発行されており、定常変種も2種確認されているので、これらでリーフを埋めることもできる。

この切手は単位額面のため消印の種類が多いので、むしろ使用済みの収集が面白いと思うが、他の切手同様この時期の消印は汚いものが多く、読めるものを探すにはそれなりに苦労するはずである。

次の5円「金魚」も単位額面用として昭和21年11月15日発行され最初は裏糊なしで、昭和22年2月からは裏糊有りとなっているので、さくらカタログでも裏糊の有無でそれぞれメインナンバーを与えており、糊無しには白紙と灰白紙があるので、单片収集では3種となる。

糊無しの灰白紙は少なく、单片ならば入手できると思うが、高い切手だけに糊有りの糊を落とした変造品もあるので、信用できる業者などから入手したほうが無難である。

初期使用は為替以外ほとんどなく、昭和22年4月1日料金改正以後エンタイアが増えるが、消印別収集はひとつおり存在するものの、他の切手同様苦労するだろう。